



食害モニタリング



水中用タイムラプスカメラは無人で長期間の撮影が可能です。そのため、より自然な状況をモニタリングできます。

この特性を生かし、ワカメ養殖施設とノリ養殖施設の食害実態を調査しました。ワカメを養殖している長井町漁業協同組合ではアイゴ、田子の浦漁業協同組合ではメジナと思われる魚類、ノリを養殖している横須賀東部漁業協同組合走水大津支所ではクロダイとボラの撮影に成功しました。対象魚の出現条件や魚体長などを明らかにし、漁業者や関係者の皆さんと一緒に食害対策を考えていきたいと思ひます。

今後、カキ養殖施設の食害やカジメ移植後の経過観察、アオリイカ産卵床においてモニタリングを予定しています。また、磯焼けのモニタリングにも水中用タイムラプスカメラを活用したいと考えています。

※食害対象魚を特定するためには対象魚の胃内容物の確認が必要となります。



本養殖を始めて数日で幼芽が食害にあひます



水中用タイムラプスカメラ MW-UWC-01

水中の過酷な環境下での使用を可能にしたタイムラプスカメラです。電池とメモリーを内蔵しており、カメラ単独でご使用頂ひけます。レンズ周辺に銅板を設置することにより生物付着を軽減します。



省電力

独自の省電力回路を使用することにより、1分間隔の撮影で約1か月、10分間隔の場合約1年間の撮影が可能です。



自動撮影停止

時間設置することにより、スリープモード切り替わり、夜間などの撮影を停止できます。



タイムラプス動画

撮影されたタイムラプス画像を連続的に再生することにより、動画のように加工することが可能です。

お問い合わせ先

株式会社マリン・ワーク・ジャパン
事業推進部 技術営業室
(担当) 佐藤, 安田



customerservice@mwj.co.jp



0120-972-939

今回のモニタリングは長井町漁業協同組合、田子の浦漁業協同組合、横須賀東部漁業協同組合走水大津支所、横須賀市みなと振興部水産振興課、静岡県水産・海洋技術研究所のご協力により実施しました。